幼兒に聽かせるお話

日本幼稚園協會編

訂正第二版

◆四六判上製本全一册 ◆定價金參圓八拾錢 ◆送料金拾貳錢 ◆優美なる新裝函入

お待兼の再版出來

このお話の本は、お茶の水の幼稚園に於て數年に亙つて、園兒に聞かせたお話の中から、子供が三度も五度も繰返して聞きたがつた特別に面白いものを、更に百種選り拔いたものです。つまり無邪氣な、眞實な子供によつて、嚴密な審査を經た譯ですから、幼稚園は申すに及ばず、一般の御家庭でも安心して、すぐ其儘讀んで御聞かせになる事が出來ます。其上倉橋先生の「幼兒教育の手段としてのお話」と言ふ講話を附錄として添へてある事も、此本の特色です。編者は自信と勇氣とを以て、皆樣に御勸め致し得ることを悦びます。

賣切れぬ内に速く〱!!

●面白い内容の目次を御覽下さい

●指太郎●下三さん慵藏さん●雲雀●蝶と蕉●百合子さんの夢●春子さんの花●秀雄さんの玩具●雀と鯉幟●燕の旅行●燕チイチイ●雀の飛行船●ビヨン太郎●青蛙物語●羽折れ雀●小人の笛●ひきがへるのブッ〱●猿の人眞似●狐の旅●お月樣●羊と猿●赤ちやん羊●七夕樣●お星樣●河童の話●ねん〱ねむの木●水遊び●雷樣の太鼓●人形の旅行●ロビンソンクルソーの話●富子さんの風船●猩々の旅行●輝雄さんのお日樣行き●小さい白兎●幼稚園が初まる●鳴かない鈴蟲●黑のお客樣●日本一の飛行機●お月見の話●お月樣の籠●月の井戸●白兎●狸の腹鼓●お地藏樣●太陽と兎●兎の尾●モナチアとマナチア●鼻高天狗●遠足●兎の手柄話●つれた〱●象の魚釣●象と鯨の綱引●豚の兒の話●虎の明神●天狗喰ひ●太郎の笛●三匹の熊●石の臼●力の鍵●瘤取り翁さん●青い石●三人連れ●鼠の工夫●羽子と凧●紙風船●三匹の小豚●虎!虎!虎!●慾ばり猫●角力ごつこ●日の丸の國旗●

兎の片耳●熊太郎●雪の朝●雪の御殿●雪姫●鶯の話●小人島●豆藏の行衛●小さい〱叔母さん●どんぐり小坊主●トロヤの木馬●コロリン爺さん●車煎餅●人形の病院●桃の種●可愛らしいお客樣●招待●二郎さんのゴム毬●お菓子の世界●お菓子の御殿●動物の國●鴨取り權兵衛●一寸法師●お友逹●鳥と獸の戰爭●小さいパン●鬼の御殿●不思議な鏡●アリス物語

||附錄――幼兒教育の手段としてのお話。回第一、お話の本質及價値(お話の定義―お話の起源―話し手と聽き手―お話の形式的價値―お話の内容的價値)回第二、お話の心理的内容(再生的な問題―欲求的な問題)回第三、お話の選擇内容(自分から見た選び方―幼兒の方から見た選び方―本質から見た選び方)回第四、お話のつくり方(光景(舞臺面)―舞臺の中心點―主副の關係)回第五、おはなしの仕方(眞實に感ずる事―言葉使ひ―身振り―子供との問答―お話のしまひ方)

發行所 內田老鶴圃

東京日本橋區大傳馬町二丁目

振替東京壹貳壹四六番
電話浪花壹參五番

印刷所 合資會社 杏林舍